

職場に おじやま



水性塗料で環境配慮

国道11号沿いの田園地帯にある自動車板金塗装工場。環境問題に積極的に取り組んでいて、県のエコショップ認定も受けている。自動車修理用品では数少ないエコマーク（日本環境協会）表示の水性塗料を使った修理サービスが大きな特徴だ。

環境保護が進んでいる欧州では、シンナーを含む溶剤系塗料への規制が厳しく、BMWやフォルクスワーゲンなど各メーカーの自動車塗装は水性塗料が主流という。国内でも新車塗装を中心に水性への転換が進んでいるが、修理工場レベルでの普及はまだまだとかな。

中山泰行社長は「シンナー臭がしないし、お客さまや作業者の健康面にもいい。また環境にも優しい」と強調する。



自動車の整備に当たる若いスタッフの表情は真剣そのものだ。年に数回、関東の塗装メーカーや車メーカー主

プラスパークアクトス

（鳴門市大津町）

催の研修に定期的に参加するなど技術向上に余念がない。入社16年目の大野茂さん（35）は「修理作業は面白く楽しい。技術に終わりはないので、もっともっと勉強していきたい」と熱っぽく語る。

ユニークなのは、自動車補修で培ったノウハウを生かし、ソファやかばんなど皮革製品の修理事業も展開していることだ。県外からの依頼も少なくないという。

中山社長は「車も家具類も長く使ってもらえるよう、きちんと直すことが大事。それが環境保護にもつながる。常に新しいものを取り入れながら、将来的にはいろんな修理を手掛けていきたい」と話している。

メモ 1991年6月創業。BMWジャパングループ板金塗装修理認定工場。スタッフは11人。営業時間は午前8時半から午後5時半まで、日曜と祝日定休。問い合わせは〈電088（685）1311〉。